110周年事業（比較文化学部）ニューズレター　第５号

今号は、7月14日（土）に開催されたシンポジウムについての特集号です。シンポジウムを企画・ご担当された石川照子先生より、当日の模様をニューズレターに寄稿していただきました。

シンポジウム「女子大学の可能性と未来への展望を拓く」が開催されました

7月14日（土）、シンポジウム「女子大学の可能性と未来への展望を拓く」が開催されました。女子大学の存在意義と使命とは何かをめぐって、熱いメッセージが投げかけられ、活発な議論が展開されました。

基調報告をされた伊藤正直大妻女子大学学長は、「女子高等教育とジェンダー」というテーマで、詳細なデータを紹介しながら女性の雇用と労働の現在、そして女子大学の現在について語られました。もう一人の基調報告者の高橋裕子津田塾大学学長は、「21世紀における女子大学のコア・バリューズ～セブンシスターズにおける二つの『共学』論争を通して考える～」と題して、トランスジェンダー学生の受け入れを巡るアメリカの大学の経験を紹介されました。

伊藤学長による基調報告

高橋学長による基調報告

コメンテータの宇沢美子慶應義塾大学教授は、カリキュラムその他から女子大学の存在意義について指摘され、赤松美和子大妻女子大学准教授からは、御専門の台湾のジェンダー状況の紹介がなされました。

さらに参加者からの質問を巡って熱い議論が交わされ、予定の3時間をこえて終了となりました。

宇沢先生によるコメントの様子

赤松先生によるコメントの様子

ディスカッションの様子

両学長とコメンテータのお二人からは、大変刺激的で重要なメッセージが沢山発せられました。

なお、このシンポジウムの記録は、比較文化学会の雑誌『カリオペ』第 8 号（2019 年 3 月刊行予定）に掲載される予定です。また、発刊が計画されている大妻ブックレットの 1 冊としてまとめられることとなっています。教職員、学生、ご父母等大妻関係者の皆様だけでなく、広くご覧になって頂ければ幸いです。

（石川照子比較文化学部教授）

告知

前期開催予定の催しはすべて終了しましたが、後期開始直後から新たな催しがはじまります。以下、後期開催予定の催しについてご案内いたします。

1．展覧会（展示）開催

想いをつなぐ炎：古代オリンピアから日本へ

駐日ギリシャ大使館および在日ギリシャ商工会議所が、オリンピックトーチを展示した展覧会をギリシャ国外で初めて開催いたしますが、本学（学部）は国内開催 5 会場のうちのひとつに選ばれております。

展覧会では、1936 年から 2018 年にかけて実際に使用された夏季・冬季オリンピック、パラリンピックのトーチ 36 基と、2004 年オリンピア採火式で着用された巫女ドレス 1 点を展示する予定です。9 月 14 日（金）～ 9 月 23 日（日）の期間中、G 棟 1 階と 3 階にて展示がおこなわれます。

詳細については、駐日ギリシャ大使館ウェブサイトもご覧ください(https://greek-embassy.tokyo)。

また、これに関連して、9 月 16 日（日）におこなわれるオープンキャンパス時には、原学部長によるオリンピックに関する講演（模擬授業）を行います。さらに、9 月 17 日（月）～22 日（金）の間にギリシャ大使館員によるギリシャ紹介の講演会が行われる予定です。

詳細は決定次第、ポスター、ホームページ等で告知いたします。是非この機会にご覧になってください。

2．大使館リレートーク

前期中に開催された 3 回はいずれもヨーロッパ諸国に関わるものでした。後期開催予定の 2 回は、アメリカ、アジア諸国に関わるゲストをお招きする予定です。詳細決定次第、ポスターやホームページ等で告知いたします。

110 周年事業（比較文化学部）
ニューズレター　第 5 号
発行日：2018 年 8 月 1 日
発行者：　井上　淳